

平成 30 年 12 月 吉 日

平成 30 年度生物機能利用研究推進会議のご案内

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）
生物機能利用研究部門 企画管理部長 高橋 清也

初冬の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、農研機構生物機能利用研究部門の運営につきまして、格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成 30 年度生物機能利用研究部門推進会議を下記のとおり開催いたします。

農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）は、農業生産現場での高齢化による農業就業率低下や、高齢化による労働力不足といった食料・農業・農村が直面するさまざまな問題の解決を図るため、基礎から応用・開発・普及まで幅広くかつ一体的に農業・食品産業の研究開発を進めています。その中で平成 28 年 4 月 1 日に農研機構の中に設立された生物機能利用研究部門は、農業現場での生産コストの引き下げや画期的新品種の創出に向け、農業生物の機能解明に基づいた品種育成や病害虫防除等のための基盤技術の開発に取り組んでいます。また、地域活性化・国際競争力強化に資するため、生物機能を最大限に活用することにより、農業生物に新たな価値を付与する基盤技術の開発や生物由来の新素材の開発を進めています。こうした研究開発の推進により、弊部門では新規基盤技術や新素材などの研究成果を次々と生み出しておりますが、このような研究成果をいかに民間事業者等の皆様に受け渡して実用化につなげるか、ということが大きく問われています。

一方、農研機構では、我が国の目指すべき新しい社会「Society5.0」の農業・食品分野での実現へ向け、農業情報研究センターを今年度新たに開設し、最新の人工知能（AI）技術、農業データ連携基盤として整備されつつあるビックデータ等を活用した農業 AI 研究を重点的に推進しており、弊部門においても、当センターと連携を図り AI やビックデータ等を有効活用した先端基盤技術等の開発を進めようとしているところです。

そこで今年度の研究推進会議におきましては、AI 関連研究分野の第一人者であるお二人の講師の先生をお招きして話題提供頂くとともに、弊部門からも当該分野の研究取組状況についてお話させていただきます。さらに研究推進会議では、農業生物の持つユニークな機能の解明やその機能を活かした新産業開拓を目指した技術開発などの、弊部門主要研究成果をご紹介、参加者の皆様とともに、関係分野の研究成果を実用化・事業化するための課題を検討することとしております。さらに、皆様からの弊部門に対するご要望をお伺いし、今後の研究開発ニーズを発掘したいと考えております。

研究推進会議では活発な議論が行われるとともに、新たな人のつながりが図られますよう、ご多忙の折、誠に恐縮に存じますが、多くの皆様にご出席頂けますようお願い申し上げます。会議終了後には、会議会場近辺にて交流会を開くこととしておりますので、こちらへの出席もご検討下さいませようお願いいたします。皆様のニーズに沿う研究成果の発掘の場になれば幸いです。

記

1. 日 時 平成 31 年 3 月 1 日（金） 12:30 ~ 17:00
2. 場 所 文部科学省研究交流センター 国際会議場及び第二会議室
茨城県つくば市竹園 2-20-5

交流会場所 スパニッシュイタリアン&バル インカローズ
茨城県つくば市東新井 19-6
交流会参加費 5,000 円

3. 議 事 別紙 1「議事次第」参照

4. 出席依頼先 農林水産省農林水産技術会議事務局、農林水産省及び他省庁行政部局、
国立研究開発法人、公立試験研究機関、大学、民間企業等

ご出席いただける場合は、お手数ですが、別紙 2「会議出席申込書」に必要事項を記入して
FAX でお送りくださるか、メール本文に「会議出席申込書」の項目をご記入の上、下記宛て
平成 31 年 1 月 18 日（金）までにお送りください。

送付先・問い合わせ先：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）
生物機能利用研究部門 企画連携室長 田中 博光
〒305-8634 茨城県つくば市大わし 1-2
TEL 029-838-7426、FAX 029-838-7416
E-mail : nias-suishin@ml.affrc.go.jp